

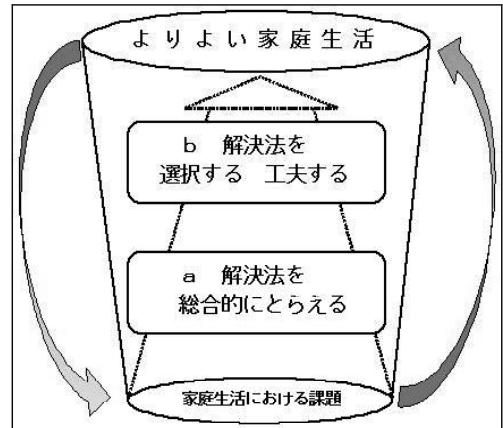
家庭科

1 育成したい「思考力」

- a 生活事象を多面的に見直す観点を見出し、解決法を総合的にとらえる力
- b よりよい生活づくりに向け、自分の家庭生活に適した解決法を選択したり工夫したりする力

家庭科の学習において育成すべき思考力は、「生活を創意工夫する能力」である。そのためには、家庭生活について見直し、身の回りの生活における課題を見つけ、その解決を目指し、家族の一員として自分なりに工夫していく必要がある。

そこで、本校家庭科では、育成したい「思考力」を「生活事象を多面的に見直す観点を見出し、解決法を総合的にとらえる力」「よりよい生活づくりに向け、自分の家庭生活に適した解決法を選択したり工夫したりする力」の二つに分けた。この二つの思考を往還しながら、様々な生活事象を見直し、他者と共生しながらより楽しく豊かな生活をつくっていく力を育成することができると考えた。



【家庭科「思考力」モデル図】

a 生活事象を多面的に見直す観点を見出し、解決法を総合的にとらえる力とは

まず、一つの生活事象に対して複数の課題を見出し、それらを自分や家族の家庭生活から多面的に見直していくのである。例えば、朝食について「毎日メニューが決まっている」や「野菜が少ない」等の課題に対し、それぞれ、栄養のバランス・色どり・量・時間・経費等の見直すための観点を様々に見出すのである。

次に、それらの観点で課題の解決法を多様に探り、その解決法を長所・短所の両面から比較・分析し、総合的にとらえていく。例えば、「野菜が少ない」という課題に対し、必要な摂取量の観点から「たくさん食べればよい」、バランスや色どりから「種類を増やせばよい」といった解決法が見えてくる。

そして、「たくさん食べればよい」という解決法に対して、実際に食べられる量や調理にかかる時間という観点から、「いためたりゆでたりすると、生よりたくさん食べられるが、調理に時間がかかる」「生は簡単に調理できて、時間も短くてすむ」とより一般的・総合的にとらえていく。このような力を「思考力」aとした。

第6学年「夏を快適に過ごす工夫を考えよう ―衣服の選択と洗濯―」の実践例より

【本題材で育成したい「思考力」】

夏の快適な過ごし方について、「涼しさ」や「清潔さ」という観点から衣生活を多面的に見直し、解決法を総合的にとらえる力

本題材では、季節の変化や生活場面等の状況に応じて、快適な衣服の着方を工夫するための具体的な方法を話し合ったり、実験で確かめたりしていく。

夏の衣生活における快適さに焦点化して学習を進めていく際、私服の着方を例にして下着を「着る」か「着ない」かという対立する二つの立場を生じさせ、各々の生活習慣や価値観

を基に話し合っていた。「涼しさ」を優先するならば枚数を少なくするために「着ない」方が良いが、透けたり汗で洋服がべたついたりする等の短所もある。「清潔さ」に着目すれば、汗を吸い取って肌を清潔に保ち、洋服を汚さないために下着を「着る」方が良いという意見も出された。このように「涼しさ」「清潔さ」「見た目」等の観点において、長所・短所の両面から比較し、判断していく力が必要になるのである。

本実践のように衣生活を多面的に見直し、「活動や目的、気候に合わせて素材や色、形状を変えながら着方を工夫する」「下着を着ないならば、こまめに着替えや洗濯を行う必要がある」等の解決法を総合的に見出していく力を「思考力」aと考える。



【下着の有無を比較】

b よりよい生活づくりに向け、自分の家庭生活に適した解決法を選択したり工夫したりする力
たとえ一般的・総合的に解決法を見出したとしても、個々の家庭にとっては必ずしも有効とは言えない場合がある。そこで、「思考力」aで見出した解決法の中から、自分の家庭の状況に照らし、最も適していると思われる解決法を選択したり、よりよいものに工夫したりしていく力を「思考力」bとして位置づけた。

例えば、よりよい朝食を考えていく場合、一般的には、ごはんのみそ汁を基本にして献立を作成すると栄養バランスが整うとされている。しかし、それを必ずしも実生活に活用できない場合がある。そこで、「朝は忙しいので、我が家では手早く準備できるパンと卵等のおかずがいいかな」「みそ汁は調理に時間がかかるので、副菜は生野菜サラダにしよう」と解決法から自分に実践可能なものを選択したり、「朝食は難しいが、夕食は栄養のバランスを考えたメニューにしよう」と1日を通した工夫を考えたりするのである。

第6学年「気持ちよく暮らそう！ 私たちのすまい」の実践例より

【本題材で育成したい「思考力」】

我が家にとって最適な「暖かくする工夫」を、そこに暮らす自分や家族の視点から選択する力

本題材では、「家で快適に過ごすための課題」の中から「暖かく暮らす工夫」を取り上げた。安全性、経済性、利便性、有効性等から、自分の家庭では何を優先して選択・工夫すればよいかを見極める力を育てることが必要である。

子どもたちは、実験や資料から、どの暖房器具にも長所・短所があることに気付き「短所を工夫や知恵で補う解決法」を考えていくことができた。しかし、その過程で得られた多くの情報から、自分の家庭生活では何を、どういう視点で、選ぶことがよいか分からない様相が見られた。そこで、「Aさん一家」というモデルを用いた共通の場を設定した。すると、「お父さんはたばこを吸うから換気をしっかりしてほしい。」「ストーブを使っていると乾燥するからやかんを置いたらいいよ。」「3歳の妹が遊ぶ居間は、安全性を考えてエアコンやホットカーペットがいいかな。肌が弱いから、乾燥しないように加湿器も使おう。」等、家族の健康や安全に配慮した選択をするだけでなく、アドバイスを考える姿が見られた。

このように自分の家での実践を考える際、それぞれの家庭の状況に照らし合わせながら解決法を選択する力を「思考力」bと考える。